

Forward CPEC-UH



第004号

■編集：
兵庫県立大学淡路緑環境キャンパス
(緑環境景観マネジメント研究科)
大学間連携事業推進室

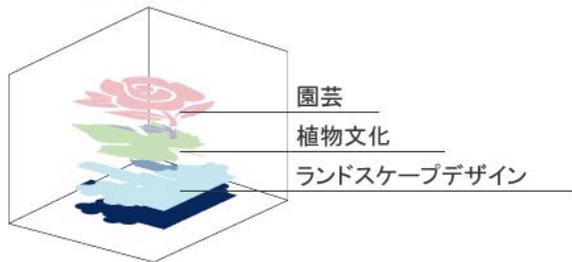
コミュニティ・プランナー育成事業に関して、兵庫県立大学は兵庫県立淡路景観園芸学校と「大学間連携共同教育推進事業の共同実施に関する協定」を締結し、連携を図って進めています。といいますか、大学間連携事業推進室がある兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科は、緑環境や景観の分野でわが国初の専門職大学院として2009（平成21）年4月に開設されたのですが、1999（平成11）年4月から2009（平成21）年3月までの10期にわたる淡路景観園芸学校専門課程の経験蓄積を基本に発展させて設置されたもので、現在も緑環境研究科と園芸学校は一心同体の関係にあります。

■淡路景観園芸学校と園芸療法課程

久保田 茂（淡路景観園芸学校 副校長）

本校は、新しい概念「景観園芸」の教育研究機関として平成11年4月に開校しました。キャンパスそのものが「自然との共生」をめざす「まちづくり」「環境づくり」につながる実践的教育すなわちフィールドワークの場となっています。淡路島の美しい自然の中で生活学ぶことが、なによりもまず「こころ豊かな人間」として優れた人格を醸成してくれるでしょう。研究科、園芸療法課程のほか、住民参加、社会人対象のプログラムなど、時代の要請に応じたきめ細かで多彩なコースを用意しています。

景観園芸概念



阪神・淡路大震災では、被災者の心を癒し、明日への希望を与えてくれる「花とみどり」が、復興に大きな役割を果たすことが明らかになりました。

本校の「園芸療法課程」はこの役割と効果に着目し、平成14年に開講して以来、すでに多くの「兵庫県園芸療法士」が、全国の医療、福祉、造園、教育など幅広い分野で活躍しています。

こうした10年になる経験と実績を活かし、東日本大震災の被災地においても、「花とみどり」の力で、人を癒し、人と人をつなぐことを、宮城大学とも連携協働して取り組んでいきたいと考えています。

（4月より兵庫県宝塚土木事務所長に転勤となりました。短い間でしたが、ありがとうございました。）



■左が平田校長・研究科長、右が久保田副校長
(130319 淡路景観園芸学校にて)



■園芸療法のいろいろな高さのレイズドベッド (130316)

■宮城大学-兵庫県立大学連携共同教育事業協議会（第3回）仙台で開催

日時：平成25年3月20日(水・祝)10:30~12:00

場所：ホテルメトロポリタン仙台 4階 萩の間

参加者

① 宮城大学

西垣学長、園部理事、蒔苗事業構想学部長、吉田看護学部長、齋藤食産業学部学部長、森山推進室長、平岡教授（以上委員）、宮原教授、森本教授、藤原教授、伊藤教授、成田課長、蜂谷副参事、首藤GL、中嶋研究員、鈴木（MIT）さん、伊佐、以上17名

② 兵庫県立大学

高坂副学長、平田研究科長、久保田淡路景観園芸学校副校長、池田経営学部長、関環境人間学部学部長、小林推進室長、山本教授、美濃教授、豊田准教授、岩崎准教授、塩見准教授、井関准教授、天野講師、横田研究員、以上14名

<次第>

1. 開会

2. 挨拶（宮城大学：西垣学長／兵庫県立大学：高坂副学長）

3. 議事（議長～宮城大学：西垣学長）

（1）今年度（平成24年度）の活動報告と次年度（平成25年度）の事業計画について

○宮城大学より各部会の班長から報告

グリーンケア部会：伊藤教授

グリーンデザイン部会：平岡教授

グリーンビジネス部会：宮原教授

ボランティア部会：森本教授

*25年度実施予定のプロジェクトと今後のカリキュラムについて報告。

○兵庫県立大学より各部会の班長から報告

グリーンケア部会：豊田准教授

グリーンデザイン部会：井関准教授、山本教授

グリーンビジネス部会：池田教授

ボランティア部会：平田教授

*先進事例の報告と実施予定のプロジェクトについて報告。

（2）次回開催予定

次年度の計画検討に入る9月頃に兵庫で開催予定。

（3）その他

森山教授より、両校の連絡網の整理について提案があった。今後は各部会から推進室へ進捗状況を報告してもらい、推進室で情報の一元化を図っていくことが提案された。また、学生への情報伝達についても検討の余地があることが提案された。

4. 閉会



■両校協議会第3回（130320 ホテルメトロポリタン仙台）

その後、同じホテルメトロポリタン仙台4階「千代の間」で、兵庫県立大学からも多くが参加して、連携共同教育推進事業キックオフイベント・宮城大学シンポジウム「コミュニティ・プランナー育成のための教育と実践」が行われ、シンポジウム後には懇親の交流会も行なわれました。

Community Planner

CP

宮城大学・兵庫県立大学連携共同教育推進事業
キックオフ・シンポジウム

コミュニティ・プランナー育成のための教育と実践

地域社会を牽引する人材の育成

3月20日

水曜・祝日

13:30~16:00

（13:00開場・受付）
メトロポリタンホテル仙台

第1部：基調講演
増田 昇 氏（大阪府立大学生命環境科学研究所緑地環境管理分野・教授）

第2部：シンポジウム「地域コミュニティの今日的課題の解決に向けて」
司会：森山雅幸（宮城大学食産業学部・教授）
大宮県共同教育推進事業の説明 平岡秀浩（宮城大学事業戦略学部・教授）

1) 地域コミュニティの抱える今日的課題 福岡昭静 氏（白石市長）

2) 課題解決に向けた取り組み事例
グリーン・ケア 豊田正博 氏（兵庫県立大学大学院環境観景マネジメント研究科・准教授）
グリーン・ビジネス 塩見正三 氏（宮城大学事業構想学部・副学部長・教授）
グリーン・デザイン 三田真輝 氏（京都大学環境フェリス学部・教授）

3) これからの地域コミュニティづくりとは
- コミュニティ・プランナー育成教育への期待 -

東日本大震災以降、日本中で「人と人とのつながり」や「地域コミュニティ」の重要性が再認識され、多くの自治体や企業、市民団体が「地域コミュニティ」の活性化に取り組んでいます。宮城大学・兵庫県立大学は、この動きを捉え、両校が連携して「地域コミュニティ・プランナー育成のための教育と実践」を推進しています。今回は、この取り組みについて、関係者から話を伺い、今後の展望について話し合いたいと思います。ぜひご参加ください。

主 催 - 宮城大学・兵庫県立大学
開催場所 - メトロポリタンホテル仙台・4階「千代の間」
仙台市青葉区中央1-1-1
電話：022-267-2245

申込方法 - 氏名、住所、職業、E-mailアドレスをご記入の上、お申し込みください。
お電話もしくはE-mailでお申し込み下さい（入場無料）
宮城大学共同教育推進事業事務局まで（仙台市青葉区）
電話：022-245-1642（受付～午後17:00）
E-mail：frings4@myu.ac.jp

<http://www.myu.ac.jp/>

■キックオフ・シンポジウム案内

■グリーンビジネス班の活動報告

西井進剛（兵庫県立大学経営学部准教授・CPEC グリーンビジネス分野担当）

兵庫県立大学・グリーンビジネス班では、企業活動を経済・社会・環境という三つの側面から複眼的にとらえようとする「トリプルボトムライン」の考え方に則り、「グリーンビジネス」を「持続可能性のあるビジネスづくり」という広義の視点から定義しております。そして、地域を持続的に発展させるための企業活動の新しいスキームについて議論を重ねてきました。このプロセスの中で、われわれが育成すべき「コミュニティ・プランナー」の理想像及び実像についての知見を得るために、兵庫県内を中心にヒアリング調査を実施してきました。

2013年1月30日、兵庫県養父市大屋地域でのヒアリングでは、大屋地域局長の和田祐之氏との意見交換に加え「大屋地域 地域活動団体等懇話会」にオブザーバーとして参加しました。現在、大屋地域では、芸術をテーマにした新しいまちづくりプロジェクトとして「おおやアート村構想」が進められており、メディアでも度々取り上げられ大きな注目を集めております。同構想は進み出したばかりで、現段階ではあくまでも私見となりますが、持続可能なプロジェクトとして進めるにあたっての事業性の問題や複数のプロジェクトを統合して推進していくためのコーディネーター役の重要性など、われわれグリーンビジネス班の考える「コミュニティ・プランナー」に必要なとされる能力や教育プログラムを考える上で多くの洞察を得ることができました。

2012年12月22日、2013年3月22日には、豊岡まちづくり株式会社の林健太氏、但馬信用金庫日高支店次長の石高真二氏（豊岡まちづくり株式会社・経営室・プロジェクトマネジャー）に兵庫県立大学学園都市キャンパスにお越しいただき、豊岡まちづくり株式会社の事業活動の現状や課題をご説明いただきました。両氏は、事実上「コミュニティ・プランナー」として活動されており、両氏のご経験やお考えを頂戴することで、理想とする教育プログラムとは何か、現実に即したプログラムはどのようなものかといった点について議論を行いました。

議論の結果、「コミュニティ・プランナー」には、ファシリテーターやコーディネーターといった能力はもちろんのこと、「地域をどのようにしてプロデュースしていくのか」というマクロな視点が必要であること。とりわけ、ビジネスに関して言えば、地域の発展と一体化した企業経営のありかたや地域全体のビジネスモデルをどのようにして構築していくのかという視点が不可欠であるとの考えを示していただきました。

来年度は、これらのヒアリングの成果を踏まえ、执行的なインターンシップの実施や地域リーダーとの交流を重ねることで、われわれが育成すべき「コミュニティ・プランナー」像を明確にし、実践的な教育プログラムへと反映できるよう、より踏み込んだ調査へと展開していきたいと考えております。



■養父市観光協会大屋支部 羽瀨浜太郎氏



■NPO 法人おおやアート村 理事長 田中今子氏



■養父市大屋地域局長 和田祐之氏



■但馬信用金庫 日高支店次長 石高真二氏

【平成 25 年度に向けて】

■平成 25 年度の事業計画について

この事業の当初申請(事業推進申請書平成 24 年度)において、

平成 24 年度 事業計画全体の枠組みと実施準備

平成 25 年度 教育体制・連携プログラムの構築

平成 26 年度 新教育課程の施行・センター機能の整備

平成 27 年度 新教育システムの体系化

平成 28 年度 CPEC 本格運営に向けた最終調整

平成 29 年度以降 CPEC によるコミュニティ・プランナー
人材育成教育プログラムの展開

が予定されており、2 年目の教育体制・連携プログラムの構築として、以下の項目があげられていた。

*コミュニティ・プランナー人材育成教育プログラムの検討、交流授業およびシンポジウム等活動のための学生・教員の交流プログラムの実施、単位互換に関する検討

- ・遠隔授業システムの導入
- ・大学とステークホルダーによる実践的教育体制の構築
- ・交流授業の試行(直接/遠隔)

25 年度の事業計画の目標は、コミュニティ・プランナー人材育成教育プログラムとしての科目(シラバス、カリキュラムなど)を共有化し、次年度の試行に向けた準備である。

そのためには次の三項目が事業計画として必要になる。

1. コミュニティ・プランナーとしての目標とする人材像、期待される能力の共有化(各学部間、両大学間)
2. そのための科目(シラバス、カリキュラムなど)の相互(各学部間、両大学間)における体系的な検討と科目実施に必要な場、想定されるステークホルダーとの関係構築
3. 遠隔授業システムや実践的教育体制の構築をふまえた交流授業の試行

また、これらの事業の進行に合わせて、次の二つの組織が必要となる。

1. プログラム検討WGを定期的に関催
2. 評価委員会準備会の設置、開催

【連携事業推進室から】

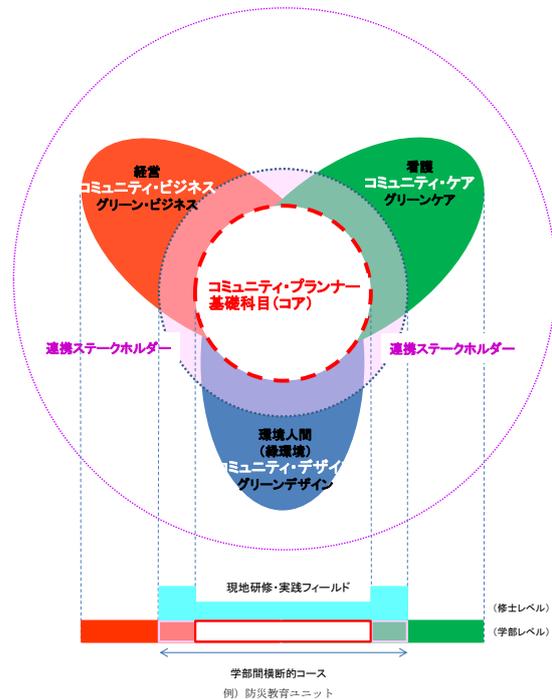
2013 年 4 月から推進室研究員が、横田優子さんから大瀬祥子さんに交替します。横田さんは、新たに研究科の客員研究員として、また従来通り園芸療法課程の非常勤講師として景観園芸学校にも、これからもかかわっていただけますので、何かあれば、いつでも連絡は取れます。

大瀬さんは園芸学校 1 期生でグリーンデザイン分野に詳しい方です。(小林郁雄)

●CPEC がめざす人材像として、必要な能力・そのための科目群などについて検討案(130222 作成)

*学部レベルでの教育システムとして、グリーケア(コミュニティケア)、グリーンデザイン(コミュニティデザイン)、グリーンビジネス(コミュニティビジネス)それぞれ既存を前提とした科目と、コア部分となる共通科目(新規が中心)からなる、「防災教育ユニット」方式の学部間横断的コースを想定。

*修士レベルでは、それぞれの学部各研究科で、実践活動を中心にしたより高度なコミュニティ・プランナー育成をめざした副コース(的な)想定。



■左から月生、大瀬、横田、小林
(130325 歓送迎会・淡路島岩屋源平にて)

兵庫県立大学淡路緑環境キャンパス(緑環境景観マネジメント研究科) 大学間連携事業推進室
UNIVERSITY of HYOGO Promotion Office for Inter-University Collaborative Program
〒656-1726 兵庫県淡路市野島常盤 954-2 Phone 0799-82-3126
Hyogo-ken Awaji-shi Nojimatokiwa 954-2
E-mail suishinshitsu@awaji.ac.jp